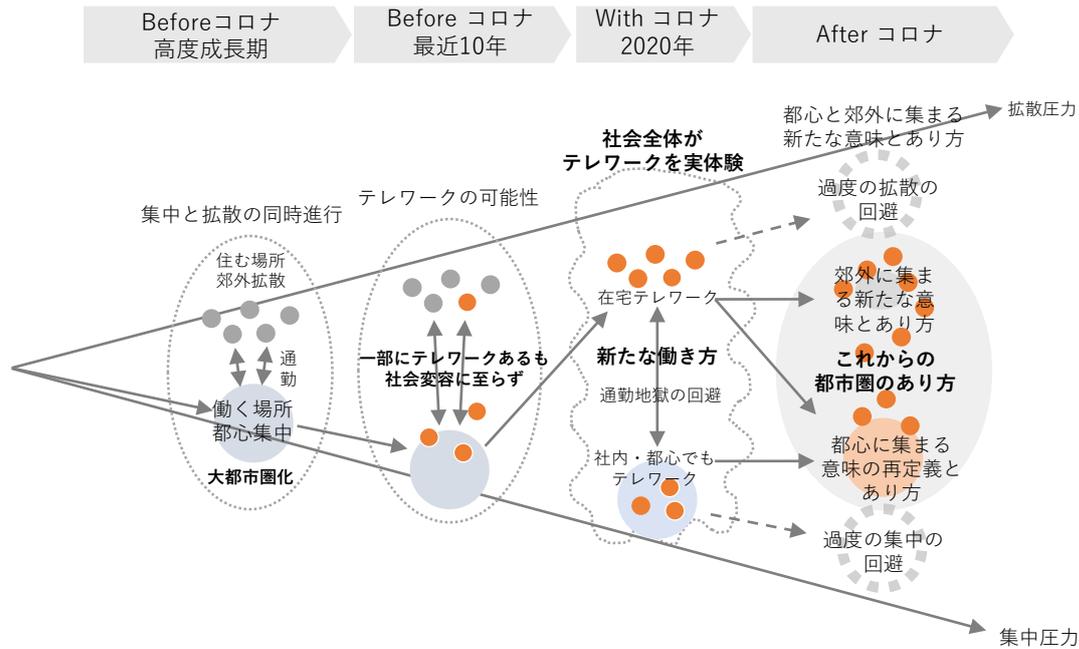


## 働き方の多様性がもたらす 都市のかたちの変化

- / コロナを契機に加速化する働き方の多様性
- / ポリセントリック化する都市圏
- / 住む場所を中心とした新しいライフスタイル
- / それでも都心に集まる理由

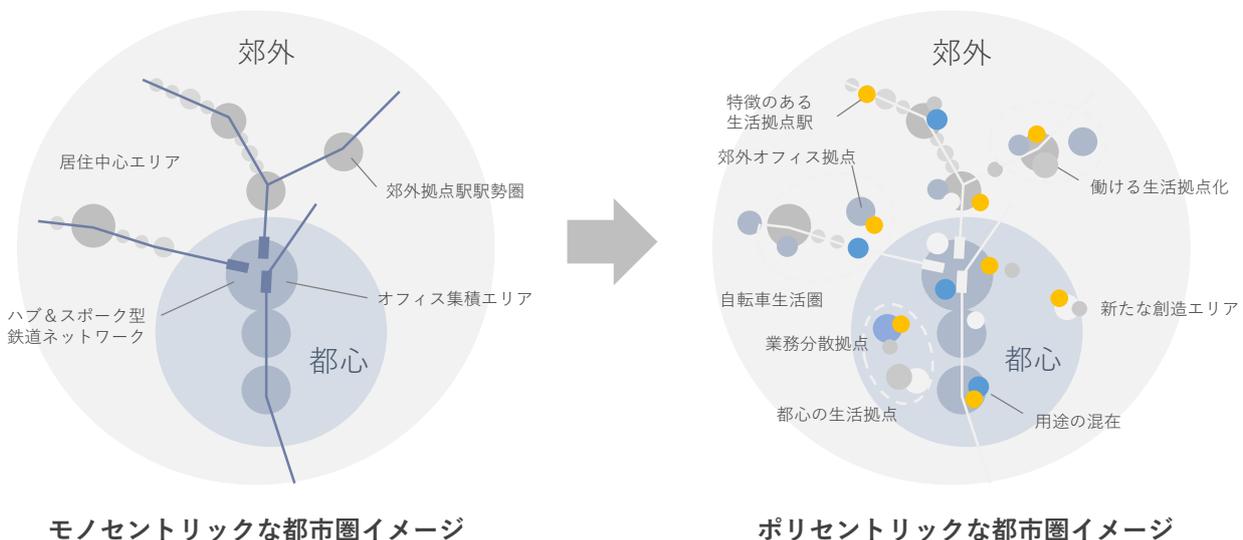
## コロナを契機に加速化する働き方の多様性

Beforeコロナの頃から既に、働き方の多様性が進みつつあったが、Withコロナで社会全体がテレワークを実体験したことにより、今後はテレワーク化が加速し、働く場所を自由に選べる社会が到来するであろう。また、それに伴い都市のかたちも変化すると考えられる。



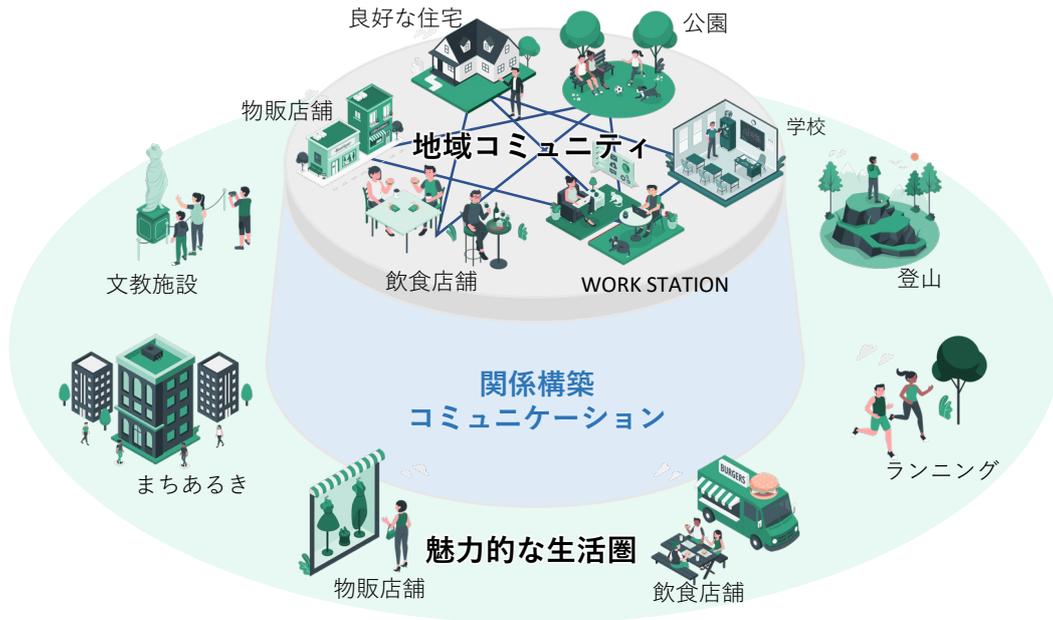
## ポリセントリック化する都市圏

大量生産、大量消費時代には効率的であった一極集中型（モノセントリック）の都市構造は、社会・経済環境の変化や、それに伴う働き方の多様性により、各々が個性的な魅力を有するエリアが重層的に集散した多極混在型（ポリセントリック）な都市構造へと転換する流れにある。



## 住む場所を中心とした新しいライフスタイル

どこに居ても働くことができる社会においては、人々が住む場所を中心としたエリアで過ごす時間が格段に増えることから、地域コミュニティの重要性が高まると共に、日々の活動やアクティビティを楽しむ圏域（魅力的な生活圏）の拡大・充実が求められる。



## それでも都心に集まる理由

ビジネス環境や公共交通ネットワークが充実し、文化・芸術施設や教育機関、エンターテインメント施設等が集積する都心には、創造的な活動を行う人々を引き付ける魅力がある。

都心のヘッドオフィスも、創造的な働き方を志向する人々が集まる場所として、発展的にそのあり方が変わっていくであろう。

